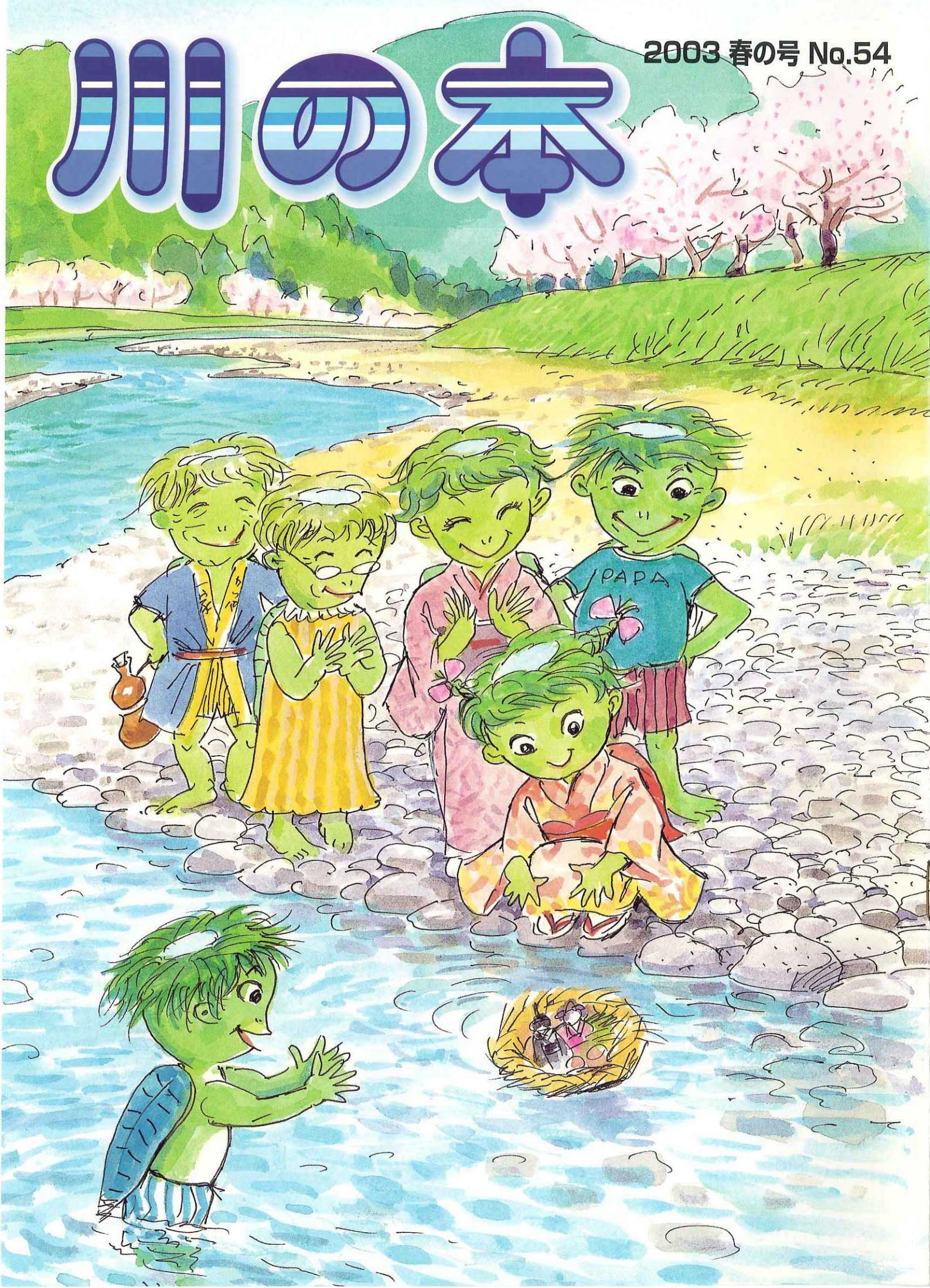


# 川の本

2003 春の号 No.54





# 川の水はどこからきて どこへゆくの?



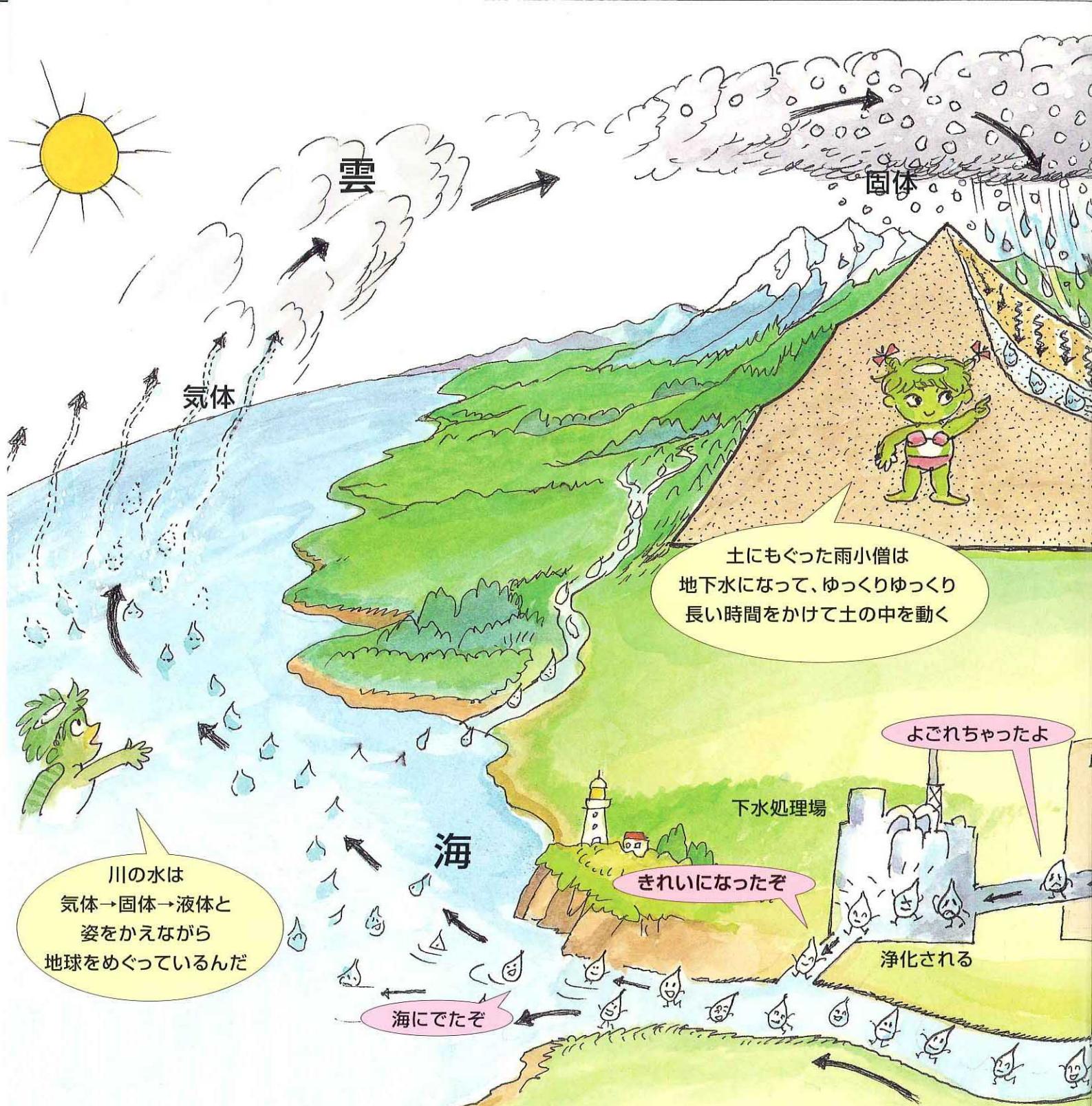
- 川の水の正体は雨水です。
- 雨は空から地面に落ちてきて、低いところを目指して流れはじめ、川になります。
- 雨水は地面にいこまれ地中にもぐつて地下水になるグループもいます。
- 地下水は、まるでダムのように地中にたまつて、ゆっくりゆっくり動きます。そして、やがておし出されます。そして、泉や川底からわき出します。

忍者のような雨小僧は  
なんども姿を変えながら  
地球をぐるぐるめぐっている

## 水循環の話



ぼくは雨小僧だ  
川の水になったり、海の水になったり  
姿を消して天に登ったり  
雲になったり雪になったり  
雨になってまた  
川にもどって来るんだ



てきます。

- 川の水は海を目指しますが、途中で水田に入つて稲を育てたり、水道の水になつて人の役にたちます。
- 水田の水も、水道の水も使われたあとは、また川にもどります。そして海に流れこんで海の水となります。
- 海の水となつた雨小僧は、こんどは太陽のエネルギーに暖められると、水蒸気に姿を変え、天に登つて行きます。
- 天に登ると雲になつて運ばれます。
- 高い空で冷えると、こんどは雪や、あられに姿を変え地上めがけて落ちていきます。
- 途中、気温が上がると雨に変身します。気温が低ければ雪のまま地上につもります。
- 雪も雨も地下水も、やがて川になつて海を目指します。このような水の旅を水循環と呼びます。

# 琵琶 滝

びわ たき

東京都八王子市 多摩川水系 案内川

がどっちの方角から音がしているのかがはつきりしません。前方からのようにもあり、右の方角からのようにもあり、左の方から聞こえるようにも思えます。俊源はやぶをかき分けかき分けあちらこちらと森の中をさまよっているうちに森はますます深くなり、おまけに霧(きり)がでてきてあたり一帯がほとんど見えなくなっていました。

むかし、高尾の山で修行していた俊源(しゅんげん)というお坊さんが、さりによい修行の場をさがして山深い森へわけ入ったときのことです。びいからともなく静かに琵琶を奏(かな)でる音がひびいてきます。

「たあて不思議なことよ、けものしか住まぬこの山奥で琵琶をひく人がいるとはどうしたじや」

俊源は、そら耳かと自分の耳をうたがいました。しかし確かに琵琶の音は聞こえています。あたりを見まわしても木や草が多い茂る山の中です。人の気配すらありません。しかしひんべん、べんとひびく琵琶の音は止むことがありません。

「こつたいどこからひびいてくるのじやろ、それにしてもなんともいえぬ良い音色(ねいろ)じやな」

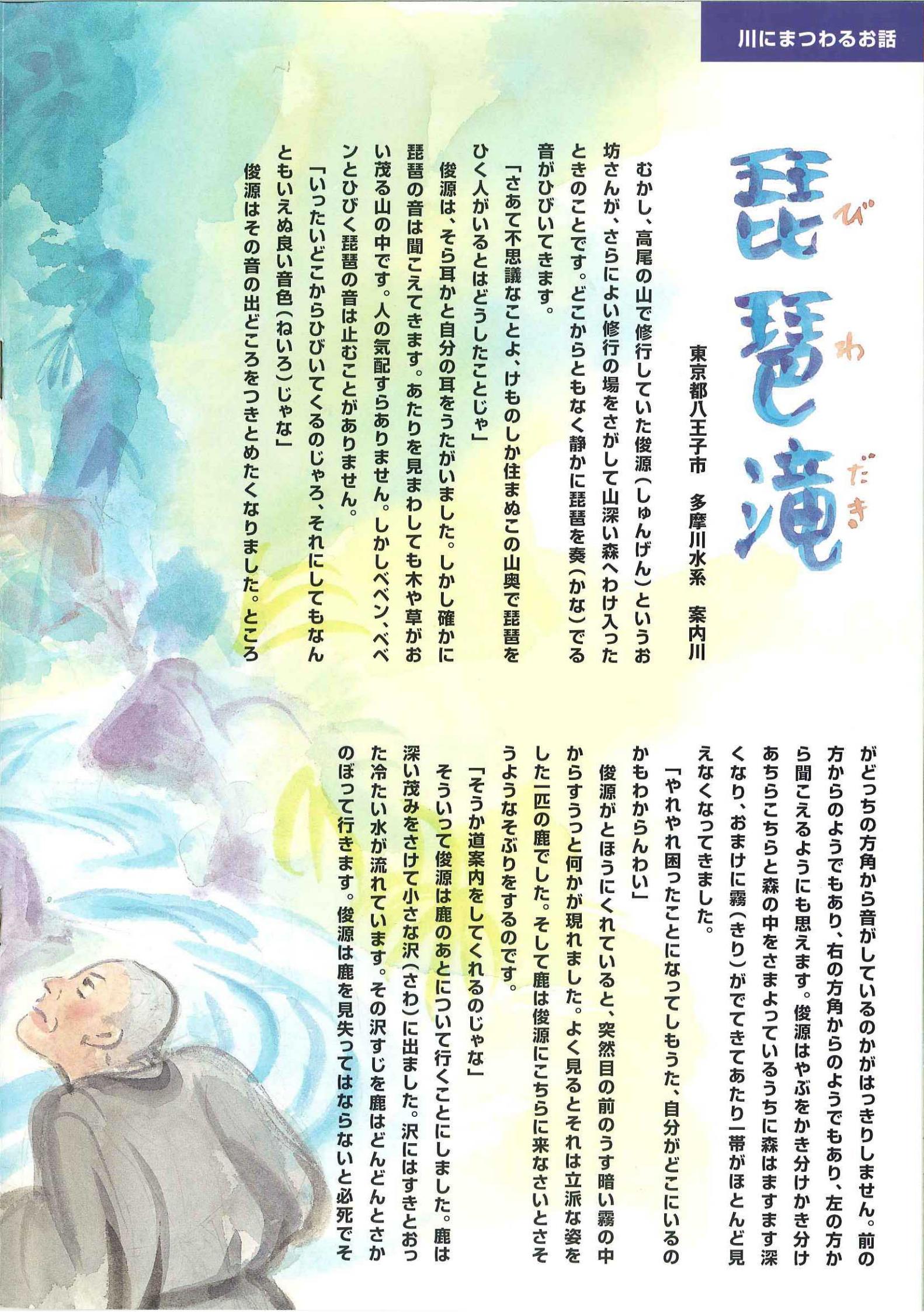
俊源はその音の出でころをつきとめたくなりました。ところ

「やれやれ困つたことになつてしまふた、自分がどこにいるのかもわからんわい」

俊源がとほうにくれていると、突然目の前のうす暗い霧の中からすうっと何かが現れました。よく見るとそれは立派な姿でした一匹の鹿でした。そして鹿は俊源にこちらに来なさいとさそうよつなそぶりをするのです。

「やうか道案内をしてくれるのじやな」

そういうて俊源は鹿のあとでつづいて行くことにしました。鹿は深い茂みをさけて小さな沢(さわ)に出ました。沢にはすきとおつた冷たい水が流れています。その沢すじを鹿はどんどんとさかのぼつて行きます。俊源は鹿を見失つてはならないと必死でそ





のあとを息をはずませながらついて行きました。するとやがて、洞窟（どうくつ）のある大きな岩の前に出ました。ところがここで鹿はかき消すように見えなくなってしまいました。ここまで鹿に案内されて夢中で沢をのぼってきた俊源は、琵琶の音色のことなどすっかり忘れていたのですが、ふと気がつくとすぐ頭の上で琵琶の音がはつきりと聞こえるではありますか。ハツとして目をあげるとまつしろな着物を着た白ひげの老人が大岩の上に腰をおろし琵琶を奏でています。身がひきしまるほどおぞかな音色に俊源は身も心も洗われる思いがしました。俊源はとつさにその場に両手をつくと

「どうか私に悟（さと）りの道をお教えください」

と深く頭を下げてお願いをしました。しかし返事がありません。しばらくしておそるおそる頭を上げてみると大岩のまわりにどこからともなく鹿が集まつてきました。と、まもなく鹿も白ひげの老人も大岩に吸いこまれるように消えてしまいました。

そしてまわりをとりまいていた霧がすうっと晴れるとそこに琵琶の形をした滝つぼがあらわれ、清くすんだ水がしぶきをたてていました。その音色は先ほどの老人の奏でていた琵琶の音色

と同じく俊源の心の底まで清めてくれているようでした。  
「ありがとうございます」とじや  
喜んだ俊源は、口元を開く修業の靈場（れいじょう）としたのでした。

### お話の川と人々

お話の中のお坊さんは、俊源大徳（しゅんげんだいとく）というえらいお坊さんです。鹿に案内されてさかのぼったことからこの川は案内川と呼ばれているのでしょうか。小さな川ですが浅川と合流しさうに多摩川に注ぐ一級河川です。

多摩川といえば最近アザラシのタマちゃんで全国的に有名になつたので思いあたる方も多いと思います。多摩川は東京都民の水をまかなう重要な川です。案内川はその多摩川の水源の一つというだけでなく、古くから関東三霊山（れいざん）として有名な高尾山より発する信仰の川でもあります。

昔から日本の人々は山には神が宿つていて、その神は川を通つて里に恵みをもたらすと信じていたのです。今でも琵琶滝には多くの人々が訪れます。滝に打たれて心身を清める修業の場となつてゐるのです。



川には総合学習のヒントがいっぱいあるよ

# 近くの川を調べて自分がけの川地図を作ろう

## 地図づくりのポイント

### 準備すること

- 1~3人の仲間をさがす。そのまゝがあきらめし樂しい。
- 自分の家から歩いてできる川を選ぶ。たとえ小さな川や用水路でも良いからなるべく近い川をしきらべる。
- しきらべる区間をきめる。

川は長いからあまりよくぼりない。長くても1キロ以内の区間の地図をつくれば。

### 本物の地図を参考にする。

川の管理を担当している事務所には、くわしい川の地図がある。わけを話してたのめば「ピーチ」とくれるかも知れない。「ピーチ」がなければ川の略図をスケッチブックにかきいつしておけ。

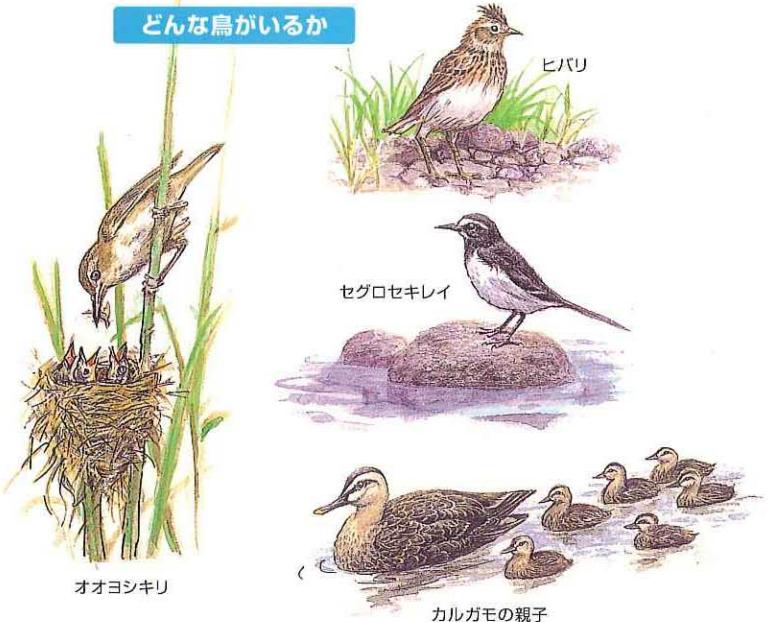
### 川に行つてしきらべること



### 遊べる場所があるか

- きめた区間にはどんな魚、鳥、植物、昆虫がいるか、写真やスケッチをしておいてあとで図かんじしきらべる。釣り人がいたうどんな魚がいるか聞いておく。
- 区間の中で川が浅いところ、深いところ、流れがはやいところ、ゆるやかなところなどしきらべる。
- 遊ぶのに安全な場所、危険な場所をしきらべる。
- できれば川の周辺の畑や町のようすもしきらべると良い。
- その川の長さや、どこからどこまで流れているのかなど、しきらべることは他にもたくさんある。
- 川のことでわからないことがあれば、近くの市役所や国土交通省の工事事務所に問い合わせてみよう。きっと教えてくれるはずだ。
- 地図は大きな紙にかき直そう。

### どんな鳥がいるか



### どんな昆虫がいるか



### どんな魚がいるか



●上のイラストは、川の中流部で良く見かけられる動植物です。●川に生息する動植物には、上流・中流・下流・河口部で、それぞれちがったものが見られます。しらべて見るとおもしろい。

### これなんだ?

#### 水位観測所

この写真は利根川の栗橋にある水位観測所で、いつも川の水位を観測しています。

洪水や水不足に備えるためには、つねに川の水位を計っておく必要があります。特に大雨が降った時など、川の水かさが急にふえたりします。こんなようすを観測し、データをおくつて洪水の危険を予測するのに役立っています。

このような施設は各河川で見られます。



ポスターのうらなど利用して区間の川をかきこみ、そこにしらべたことを書きこめば出来上がりだ。世界にひとつしかない君たちだけの地図だ。  
市役所などにはりだし発表した仲間もいるよ。さあ君たちもチャレンジしてみよう。

# 川の仲間たち

まぼろしの特別天然記念物

## ニホンカワウソ



「カッパの正体は、実はカワウソかもしれない」そんな説があるニホンカワウソは、体長1メートルほどもあって、ときどき二本足で立ったりします。川や湖にもぐっておもに魚を捕って食べる淡水性哺乳類でイタチの仲間です。

かつて江戸時代ころまでは、日本中の川で、その姿を見ることができたといわれています。

そのニホンカワウソが最近姿を見せなくなっています。1993年高知県でフンが発見されたのを最後に生きているという証拠が見つかって

いません。もしかしたら絶滅したのではないかと心配されています。

こうなったのはある時期、高く売れる毛皮を求めて乱獲されたことや人間の都合で開発が進み、川の自然環境が悪化したことなどがおもな原因だと考えられています。

最近は豊かな自然の川をとりもどそうとする活動が各地で行われています。ニホンカワウソがどこかでこっそり生きていて、再び姿を見せてくれる日を願わずにいられません。



財団  
法人 河川環境管理財団

Foundation of River & Watershed Environment Management

(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号  
TEL(03)3297-2600(代表) <http://www.kasen.or.jp/>